

議 事 録

用 件	市長との懇談会（瑞浪市社会保障推進協議会・設立準備会）
日 時	令和8年7月8日（水） 11時～12時10分
場 所	市役所 2階大会議室
参加者	瑞浪市社会保障推進協議会・設立準備会 代表 柳瀬 他4名 （犬塚、稲葉、岩島、伊佐治）
市出席者	水野市長、藤本健康福祉部長、和田健康福祉部次長兼健康づくり課長、 足立商工観光課長、（進行：谷口 書記：加藤）
1. シャトルバスの帰りの本数を増やしてください	
参加者	・公立東濃中部医療センターでは、診療後の会計等の待ち時間が長くなることがある。シャトルバスの最終便は13時30分となっており、これに間に合わない、コミュニティバス乗り場までタクシーを利用しなければならない。当面の改善策として、帰りのバスの運行時間を14時30分にしていきたい。
参加者	・高齢者にとっては慣れない大きな病院であり、複数の診療科を受診することもあるため、最終便に間に合わないという事態が起きている。
市長	・現在、会計機3台がすべて稼働し、スタッフも増員されたことで、開院以降の会計処理がスムーズになってきたと認識している。会計等のスピーディーな対応や、シャトルバスの帰りの本数を増やしてほしいというご意見を含め、本日いただいたご意見については、シャトルバスの運営主体であり、本数、運行設定等を担うJA岐阜厚生連（以下「厚生連」）へ、改めて伝えさせていただく。 ・指定管理者である厚生連には病院経営全般をお任せしている状況である。公立病院ではあるが、シャトルバスの運行（本数、時刻等）に関しても、協議をしながら進めていくことになる。
参加者	・回答書および6月議会の一般質問において、バスの増便は予定していないと回答された根拠を教えてください。また、現在困っている人はなくなったのか、検査等を受けている方が増便なしで全員バスに間に合っているのか、厚生連および市が実態を把握した上で、増やさないという結論を出しているのか。
市長	・シャトルバスの増便については、開院して間もない状況であり、10月には診療所の開院も予定されていることから、シャトルバスの利用者数が変化する可能性がある。そのため、市および厚生連は、今後の利用状況の把握に努め、当面はその推移を注視していくこととなる。（6月議会一般質問 犬塚議員 標題1要旨イにて回答） ・厚生連では、シャトルバスの利用状況に係る調査を半年から1年間程度実施した上で、運行設定等を検討する方針である。 ・市が運行するスクールバス、コミュニティバス、デマンドバスにおいても運転手の確

	保が非常に困難な状況であり、簡単に２便、３便と増やすことはできない。厚生連も、運行を業者に委託しているため、業者の意向を確認しながら運行体制を決定せざるを得ないのが実情である。
２．公立東濃中部医療センター行のデマンドバスを運行してください	
参加者	・デマンドバスやコミュニティバス、または釜戸から電車を利用し、シャトルバスに乗り換えて通院する方の中には、通院するだけでくたびれてしまって、家に帰ってから１時間ほど寝ないと体を動かせない方や高齢者、病気の方もおられる。厚生連が運行している「けんこう号」は、現在週１回だけの運行ということだが、便数を増やすことや直通のデマンドバスを運行することはできないか。
市長	・市は指定管理者である厚生連へ送迎を含めた病院経営全般を委託している。「けんこう号」の増便や見直しによって課題が解決されるのであればよいと思うが、社会情勢として運転手の確保が非常に困難であるため、厚生連であっても容易には対応できないのが現状である。いただいたご意見については同様に厚生連へ伝えさせていただく。 ・市の運行するデマンドバスについても、運転手の確保が非常に困難であるため、増便や直通運転は考えていない。
参加者	・デマンドバスは市をまたいで運行することはできるのか。
商工観光課長	・デマンドバスについては、瑞浪市地域公共交通計画において、市内運行を前提とした設定としている。
参加者	・市外へ運行できない理由は、法律的なことではないのか。
商工観光課長	・法律的には市内に限定しなければならないという制限はないが、コミュニティバスとデマンドバスを含めた公共交通全体のやりくりの中で編成しているため、これ以上の路線拡張ができないというのが実情である。
参加者	・恵那の自主運行バスのような形で実施できないか。
市長	・商工観光課長が説明した通り、多くのバスを運行するにあたり、運行スケジュールや車両・運転手の確保を業者に依頼している中で最大限の計画を立てている。これ以上業者は受けられない状況であり、病院まで直通というのが理想だが、できる範囲で最善を尽くしている点をご理解いただきたい。
参加者	・市長がおっしゃったことは、高齢化社会の進展に伴い当然予測されることである。一人一人が豊かな老後を迎えているわけではなく、ますます先の見通しが悪くなってくる中、今はできないかもしれないが、弱者の立場に立って考えてもらえると、今日来た甲斐がある。市民の行政の役割の捉え方も気になるところである。

市長	・市民の皆さんにもある程度ご理解いただいていると思うが、今行政では、子育て、就労、高齢福祉等の様々なサービス提供や基盤整備、災害に強いまちづくりなど、様々な要望がある。すべてを行政だけでやれる時代ではなくなっている。市民の皆さんでできることは市民の皆さんでやっていただき、できないことは我々行政がやらないといけない。市民の皆さんと行政の協働で、この 19 年間やってきた。夢づくり地域交付金という予算をそれぞれ地域に配分させていただき、地域の方々がそれぞれ地域の課題解消のために使えるよう、毎年各地域に提供させていただいている。それを使って地域でできることもやっていたいただいているというのは瑞浪市だけではないと思っている。 ・自動運転が今、アメリカや中国では当たり前のように行われており、日本も自動運転をレベル分けして運行するという発表があった。去年、市の実証実験で試乗していただいた方には自動運転のご理解をいただけたと思うが、日本では、国の体制整備ができていないため、本格的な実用化には至っていないことも改めて痛感した。そこで瑞浪市としては実証実験を降りるということにし、代わりに自動運転が一般的となった時、一番に手を挙げたいということで結論付けた。これは瑞浪市だけではなく、土岐市や多治見市、中津川市も同じ判断をしている。現在は恵那市だけ実施しているため、他 4 市は、見守っていこうというのが現状である。 ・現実的なものとしてライドシェアを実施したいという要望もある。自分の車を使って、近所の方々を送り迎えするという制度である。このライドシェアも専門業者の介入や制度整備も必要になってくる。そういうところを国が整備を進め、行政では手が届かない部分を地域の元気な方々が、困っている方々を応援することができる制度を作って欲しいと思っている。
参加者	・長野県安曇野市の例があるように、様々な事業がある中で、市の独自性を作っていけるような施策をこれから考えていただきたい。先ほど市長が言われたライドシェアという方法があるが、受ける方々の高齢化や何かあった際の保険等を考えると、継続的にやっていけるのかという心配がある。公共的に保障のある交通システムを作っていくことが本当に安心して継続できるものとして必要ではないのか。いろいろな事業があると思うが、どこにお金をかけていくかということが、市の独自性や魅力につながるのではないかと考える。
市長	・先進事例については研究して瑞浪市で取り入れていけたら良いと考えている。すべては出来ないため、皆さんと相談しながらできれば良いと考えている。瑞浪市地域公共交通協議会においては、毎年各区長から現状を報告いただき、路線・運行時間の見直しを行っている。 ・瑞浪市の場合は業者が少なく、新たにもお願いしてもお金の問題ではなく、人員不足から対応できないという現実もあることはご理解いただきたい。

3. 旧東濃厚生病院ロータリーバス停をシャトルバス乗り場に行っている期間は ① 旧東濃厚生病院のトイレを使えるようにしてください ② 旧東濃厚生病院ロータリーバス停近くの自転車置き場を分かりやすくしてください 4. 検診棟の診療所を出来るだけ早く開設してください 5. 新設のバスターミナルにトイレと自転車置き場を設置してください	
参加者	・旧東濃厚生病院ロータリーバス停をシャトルバス乗り場に行っている期間は、トイレを使えるようにしていただきたいというのは、旧東濃厚生から安全上で受けることはできないと回答をいただいている。しかし、高齢者にとってトイレは深刻な問題で、工事現場の簡易トイレでも助かると思う。トイレが近くにないというのは大変である。ご検討いただきたい。
市長	・10月1日から診療所が開設する予定のため、その間は文化センターのトイレを使っ ていただきたい。簡易トイレを用意するという点に関しても課題があるため、もうしばらくご辛抱していただきたい。診療所の開設については、もっと早い段階の予定だったが、厚生連からは資材調達や工事の関係で開設に時間がかかっていると聞いている。正式にスタートできるのは、10月1日からとなる。
参加者	・診療科目は何か。
市長	・内科と眼科を予定している。当初、外科が日替わりで来るかもしれないという話だったが、今の段階では確定しているのは内科と眼科である。
参加者	・文化センターのトイレは早朝でも使えるのか。開いていない時間はどうしたらよいか。
市長	・早めに自宅でトイレを済ませていただくなどの対応をお願いしたい。
参加者	・10月のオープンまでの期間は移動式のトイレを考えていただきたい。
市長	・申し訳ないが、移動式トイレの設置は考えていない。
6. その他	
参加者	・民救トランスポートというのがあるが、市としてはどうとらえているのか。
市長	・現在のところ支援要請はないが、市民の皆さんでできることは市民の皆さんで創意工夫していただければありがたいと思っている。
参加者	・けんこう号や巡回診療だけで本当に市民が満足できるのか。市民のニーズは他にあるのではないかと。陶や釜戸に診療所を作るといったことを展望としていくことも大切だと思う。

市長	赤字の診療所を閉鎖して統合している時代に、新しく診療所をいくつも開設することは、理想的ではあるが難しい。市内に医院を誘致していきたいとは思っているが、今回の統合の経緯を含めご理解いただきたい。
----	--